

[対象入試]

2026 年度 公募制推薦Ⅰ期・Ⅱ期

2026 年度 総合型選抜 基礎学力方式

【国語】

大問5問で構成されており、現代文の基礎的な能力を判定するための試験である。具体的には、1) 漢字の読み 2) 慣用句や四字熟語の理解 3) 前後の文の論理関係の把握 4) 文脈理解 5) 大意の把握 といった、基礎的かつ学習の必要な項目を出題している。これらは受験生に対して、現代文における暗記分野（漢字や語彙）と思考分野（文脈理解や要約）の双方を意識して学ぶ必要があることを示している。

第1～第3問は、文章題ではあるが、文章の長さは 1000 語から 2000 語で、比較的短めの文章が用意されている。文章自体は一読すれば内容が理解できる平易なものが選択されており、それぞれのテーマに重複はない。また、出題形式も内容一致（第1問）、接続語の補充と欠落文補充（第2問）、文の整序（第3問）に分かれている。いずれの出題にも「傍線部について答えよ」といった設問がないが、それは部分的な理解ではなく全体の文脈を理解し内容を再構成する能力を判断したいためである。第4問は漢字の読みについての設問である。常用漢字の範囲内ではあるが、音・訓・慣用読み・四字熟語、と内容は多岐にわたっている。第5問は四字熟語、慣用句、熟語の意味をはじめとして、季語、漢字の構成、文学史等さまざまである。『国語便覧』などを用いて、国語の基本的知識を着実に学ぶことが求められている。

【英語】

「英語基礎学力検査」は、英語に関する知識の量、つまり今の時点で何を暗記しているかを測るための試験ではなく、これから英語の力を着実に伸ばしていくために必要となる土台が築けているかを確かめるための試験です。

試験は4つの大問から成っています。第1問と第3問が客観問題で、第1問では文法・語彙問題が5題、第3問は語句の並び替え問題が5題出題されます。並び替え問題の英文には日本語の訳が付いています。第2問は会話問題で、10行から15行程度の簡単な日常会話を読み、5つの空欄に入る適切な英文を選ぶ問題形式になっています。第4問は総合問題で、250語から350語程度の長さの英文を読み、主に内容把握を問う設問に答えます。設問は、本文に出てくる語の発音問題を含め10題出題されます。

この試験は、なるべく短い時間で苦勞なく解けるように考え作成されています。客観問題を含め、会話問題・長文問題も分かりやすく、かつ英語として自然な文章が素材として用いられています。この試験で満足のいく結果を出すことができれば、英語を学ぶ上で十分な基礎力があると言えます。あとは自信を持って、どんどん先へ進んでいってください。

[対象入試] 2026 年度 公募制推薦Ⅲ期

【国語】

公募推薦Ⅲ期入試では、基本的な文章の読解力および国語の知識の学力認定を行う。それぞれ 2500 字程度の文章に基づく大問 2 題を出題し、本文中の漢字の読み・漢字の選択、語義などの知識問題のほか、傍線部の文意や指示語の内容を問う部分読解問題、接続詞や副詞を補う空欄補充問題、脱文補充問題、本文内容の把握を確認する内容一致問題など、一般的な現代国語の出題形式である。

文章はいずれも標準からやや易しいレベルで、26 年度は第 1 問が評論文（田村明『まちづくりの実践』）、第 2 問はエッセイ（星野博美『今日はヒョウ柄を着る日』）が出題された。文体や内容ともに異なる文章を用いることで、多様な文章に対応する読解力を確認しようとの意図である。漢字については、傍線部のカタカナに当てはまる漢字と同じものを用いる熟語（選択肢の該当箇所もカタカナ）を選択させたり、読みでは訓読みをした場合の最初の音を選択させたりと工夫を凝らしている。このほか、語義や対義語を選択させる問題、熟語中の漢字の意味と同じものや熟語の構成が合致するものを選択する問題など、多様な形式の問題を組み合わせることで総合的に語彙力を測定しようとしている。

部分読解では、傍線部の文意および指示語の内容説明、理由説明のほか、文章の筆者が意図的に省略している内容を補う問題や、傍線部の内容の具体例を選択させるなど、さまざまな形式の問題を設定することで読解力を確認しようとしている。難易度は高くないが、正確な漢字の運用力や読解力を身につけていることを求める問題といえる。

【英語】

第 1 問 A では、基本的な文法事項や語彙が身につけているかを確認します。奇をてらった文法事項や熟語を問う問題はありせん。英文法全体を偏りなく学習し、基本的な語彙の習得を心がけてください。第 1 問 B では、与えられた語句を並べ替えることを通して、基本的な英作文力を確認します。英語では語順が重要です。基本的な英文構造を土台として、日本語の内容に沿った自然な英文を組み立てられるようにしてください。

第 2 問の会話の問題は、A では、短い対話文の空所を補うことを通して、会話表現の理解力を確認します。対話の状況を把握し、問いかけと応答の形式に着目してください。また、会話特有の表現についての知識が求められる場合もあります。第 2 問 B では、やや長めの対話文を通して、会話表現の理解力を確認します。A よりも内容が複雑になるため、対話理解に加えて、長文読解に近い力も求められます。

第 3 問では、英文読解力を確認します。空所補充問題が中心ですが、文法や語法の知識だけでなく、何よりも文脈を踏まえて解答する力が必要です。また、内容一致問題も含まれるため、文章全体を的確に読む姿勢が大切です。

第 4 問でも、英文読解力を確認しますが、内容理解を問う問題の比重が高くなります。意味が捉えにくい単語あるいは文に遭遇しても、前後の文脈を踏まえて繰り返し読み、適切に解釈する力があるかどうかを試されています。

以上のように、本試験では英語のさまざまな側面から、大学で学ぶために必要な英語力と思考力を総合的に評価します。

【数学】

数学Ⅰ・Aで学習する基礎を理解しているかを見ることに主眼が置かれている。さらに、単に易しい問題が解けるかだけでなく、誘導に従って考えを進めてすこしレベルの高い問題にも対応ができる思考力ももっているかも判定できる構成になっている。

各分野ではその特徴を活かして、次のような能力を見ることに重点を置いた。

* 数と式

式の計算や方程式・不等式を解くという、数学では欠かせない基本的な能力

* 2次関数とその応用

様々な関数を学ぶ上で、共通する基礎的な概念を理解している能力

* データの分析

平均値や分散などのデータを特徴付ける値が計算できて、データ分析における意味も理解する能力

* 図形の計量と図形の性質

図形の性質を理解し、法則や定理で的確に処理ができる能力

* 場合の数と確率

状況を把握し、この分野で学ぶ基本形を自由に適用することができる能力

それぞれの分野で学ぶ内容に関する理解だけでなく、数学全体において重要なテーマである関数、図形、確率を題材にして、広く一般に必要とされる論理的な思考力や柔軟な応用力の有無を見ることにも留意した。